JAトピックス

2016年 1月

年頭にあたって

代表理事組合長　髙橋　光秀

謹んで新年のお慶びを申し上げます。組合員・ご家族の皆様には新しい年の始まりを希望に満ちて迎えられた事と存じます。昨年の営農を振り返りますと雪解けも例年より早く、植付作業は順調に進んだものの、５月～７月中旬にかけての干ばつ、６月上旬の降霜・強風の影響で一部小豆等に被害が発生し、出来秋を不安視する状況ではありましたが、小麦きたほなみに於いては過去最高の収量となり、甜菜では７年ぶりに高糖度・高収量となり高い所得を確保する事が出来ました。また馬鈴薯を始めとする他作物についても全体としてほぼ平年作の収量を維持し、酪農畜産では濃厚飼料の価格が高止まりではあったものの、乳価の３円６０銭アップや、個体販売、枝肉価格が一昨年に続き高値で推移した事もあり、全体に恵まれた１年でありました。組合員の皆様の日々弛まぬ営農努力が報われた年であったかと思います。平成２７事業年度も２ヵ月余りとなりましたが、本組合の収支見込みも当初計画を上回る状況となっております。これも総会で承認頂きました事業計画に基づいて、組合員の皆様に結集頂いた賜物と深く感謝申し上げます。

農業を取り巻く情勢は昨年１月に日豪ＥＰＡが発効され、８月に農協改革法が成立致しました。また、１０月５日には農協組織が他団体とともに断固阻止に向けて運動展開してまいりましたＴＰＰがアトランタの閣僚会議の中で大筋合意がなされました。次々と合意内容が明らかになっていく中で、決して国会決議である聖域とした重要５品目を守ったという内容ではなく、発効されれば段階的に関税が撤廃削減されて価格に影響が出て来る事は間違いなく、我々農業者の経営が成り立ち、そして将来を担う若者たちが安心して営農を展開できる様、今後とも長期的展望を持った対策を農協組織として政府に求めていく事が重要かと思います。

ＪＡグループは昨年１１月に開いた北海道大会で今後３年間のスローガンを『北海道５５０万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」』の実現とし、農業所得２０％の増大や道民５５０万人のつながりづくりを目標とし

大会決議がなされました。農業者の所得向上が、魅力ある農村となり、消費者や地域住民とのつながりによって消費者の農業に対する理解が生まれ、持続可能な農業の発展や地域の活性化に繋がると考えます。組合員が農業を生業として生活できる様、ＪＡがその役割を果たしていく事が今求められています。

今、農業は大きな変革の時代を迎えております。このような時代こそ協同の理念を再認識し、組合員・役職員が心を一つにして乗り越えていかなければなりません。組合員・役職員がそれぞれの役割を果たしながら信頼を高め、組合に結集し、協同活動を高める事によって必ず道は開けるものと固く信じております。

新年度は３年に一度の役員改選期となります。これまでの３年間の事業運営にご理解ご協力頂きました事に深く感謝申し上げます。平成２８年も天候に恵まれ稔多き出来秋を迎える事ができます様、併せて組合員ご家族の皆様のご健勝を祈念して新年のご挨拶といたします。

新年を迎えて

札内農業協同組合　代表監事

組合員の皆様、新年あけましておめでとうございます。ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのことと思います。

思い起こせば、２７年は２月の大雪などで春耕期の作業の遅れが心配されましたが、播種作業など順調に進みました。また、各農作物とも早熟傾向となりました。

作物別に見ますと、小麦は６月の開花期、７月の登熟期と収穫期とも天候に恵まれ、近年にない大豊作となりました。豆類は、平年作でしたが小豆の価格は低迷しました。てん菜は、褐斑病、西部萎黄病とも少なく、収量、糖分とも良好な結果となりました。馬鈴薯は、収量、価格とも平年作と思われ、今後の有利販売に期待します。野菜においては、１年を通してまずまずの価格で取引されました。酪農、畜産でも飼料高ということもありますが、ほぼ計画通りで、家畜消流においては近年の高値傾向が継続しています。

農業情勢は農業者の高齢化や担い手不足など農業の構造変化が続くなか農地中間管理事業など農業政策は転換期をむかえています。また、国会が安保関連法案で紛糾している中、１０月にＴＰＰの大筋合意がなされ、小出しにしか出されない情報に戸惑っております。ＴＰＰの締結は十勝の農業はもとより関連産業、地域経済にも深刻な影響を及ばすことが危惧されます。また、補助金など一時的な政策だけでなく、マークアップの減少分を恒久的に補てんし、現在の制度を維持することを期待します。また、本年は、第２８回ＪＡ北海道大会が開催され、力強い農業、豊かな魅力ある農村などメインテーマのもと農業所得２０％増大などが決まりました。

農協の運営では、車両洗浄機、コンテナ洗浄機が補助金で設置されることになりました。事業では、ほぼ計画通りに推移しております。監事会として監査業務を通して経営全般の強

化に取り組んで行きたいと考えておりますので組合員各位におかれましては引き続き、ご協力をよろしくお願い致します。

本年も災害がなく、豊穣の出来秋を迎えることができますよう心から祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶

札内農業協同組合　青年部長

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、謹んで新年のお慶びを申し上げます。また、日頃より青年部活動に対しましてご理解、ご支援、ご協力を頂いております組合員の皆様、農協役職員の皆様には改めて感謝申し上げます。

昨年は春から初夏にかけての降雨量不足、また突然の大豪雨や収穫期の天候不順などが農産物への生育、品質に大きな影響を与えた一年となりました。

青年部の活動では、６月に農協施設周辺の環境整備事業と併せて新たに農協役員の皆様との意見交換会を行いました。ＴＰＰや農協改革など不安な農業情勢が続く中、組合長をはじめ役員の皆様がどのような考えをもっているのかを知ることができ、とても有意義な会にすることができました。７月には恒例事業となっております農協役職員とパークゴルフ大会を行い、多くの方々にご参加頂き、大変嬉しく思っております。

１０月には幕別町教育委員会と協力し実施している食育事業を札内南・北小学校の３年生、約１３０名の児童を対象に行いました。内容は昨年度好評を頂いた長芋の収穫体験をメインに授業を行いましたが、児童から出される質問のレベルの高さに驚いたと同時に食と農業に対し、関心を持っていることをとても嬉しく思い、未来を担う子供たちへ安全で安心な農作物を届けることの大切さを改めて感じました。今後も次世代を担う農業者となるべく、各種事業を通じて知識や技術の習得、盟友個々の意識の向上を図り地域農業の振興と魅力ある青年部活動を目指していきたいと考えております。

一方、昨年は農協改革、ＴＰＰと農業情勢に大きな影響を与える動きがあり、農協改革をめぐる問題では農協法等の一部改正案が国会で可決され、日米財界が要求しているとされる金融・信用事業の株式会社化へ一歩近づく形となり、また、ＴＰＰ交渉の問題では米国アトランタの閣僚会合において交渉が大筋合意に至りました。合意内容を見ると農林水産物は全体の八割が即時もしくは段階的関税撤廃の対象となるなど、我が国において、かつてない農畜産物市場の開放がなされる結果となっています。非常に厳しい農業情勢になる中、私たち農業青年は今まで以上に、命を支える食と農業の大切さを多くの方々に伝え、力強い農業を作り上げていかなければならないと思います。

最後に、本年も変わらぬご支援ご指導をお願い申し上げますとともに、部員各位、そして組合員の皆様の今年一年のご健康とご多幸を祈念し、年頭の挨拶と致します。

新年のご挨拶

札内農業協同組合　女性部長

女性部員、ご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

平成２７年度も、たくさん事業計画に基づき部員の皆様のご協力により、進めることが出来ました。

さて、昨年の女性部事業を振り返ってみますと、６月に行われた下部組織合同交流会では数年ぶりにボーリング大会を行いました。この日は気温が３０℃を超える猛暑でしたが、エアコンの効いたボーリング場で涼んで頂きながら、素晴らしスコアを出して頂きました。プレー後は焼き肉を食べながらの表彰式、親睦会となり、和やかに親睦を深めて頂きました。７月に行われた管外研修では札幌、恵庭方面を巡り、大倉山展望ジャンプ場ではリフトで上まで行きその高さを実感し、オリンピックの選手はこの高さから飛ぶのかと思うと足がすくみました。その後大倉山競技場内にある札幌ウィンタースポーツミュージアムへ行きジャンプやクロスカントリーなどのウィンタースポーツの疑似体験をして楽しみました。夜は北海道四季劇場に移動し『ＣＡＴＳ』観劇を堪能して来ました。２日目はホクレンショップで地元の食材や道内の名産品の販売を視察しました。恵庭の「えこりん村」では、施設内のトマトハウスに毎年１１月に種から水耕栽培で育てられた巨大なトマトの木から収穫したトマトで「ドライ塩トマト」などのアイデア商品を作り販売されていました。みどりの牧場では、アルパカや羊と触れ合うコーナーで毛の感触や体温を感じてきました。夕食は園内のレストランで北海道産にこだわった新鮮野菜のサラダビュッフェでお料理を頂き野菜の料理方法の勉強になりました。８月に行われた１日バス研修では『大人の社会科見学』と題し釧路方面に行って来ました。大塚食品釧路工場ではオロナミンＣの製造工程を見学。釧路市立博物館では道東の自然や生物、動物の生態、歴史などの資料を見学して来ました。日本製紙釧路工場では、古紙から新聞紙になる再生紙が出来るまでの工程を広い敷地内を案内して頂きながら見学して来ました。隣の敷地にある道新の工場ではその日の夕刊の印刷を見学してきました。

一方日本の農業情勢はＴＰＰ交渉が大筋合意に至りこれからの農業に大きな不安の種になりました。昨年のＪＡ北海道大会でのパネリストの言葉で印象に残ったのが『いつまでもあると思うなこの景観』。美瑛町のパッチワークの丘の畑の色が去年と違うのは農家が毎年違う作物を植えている、つまり輪作をしているからだと知ったそうです。これからはもっと北海道の作物をアピールして行く必要があるのだと、そんなお話を聞きながらこれから多くの問題を抱える日本の農業ではありますが、これからの担い手が将来に渡り意欲と希望を持って営農が出来る様にしていかなければならないと思いました。

皆様が健康で明るく過ごせる１年であることを願い新年のご挨拶とさせて頂きます。

農村ホームステイ
大阪府立八尾翠翔高等学校

１０月上旬に引き続き、１０月２０日・２１日の２日間に渡り、大阪府立八尾翠翔高等学校の２年生が農業の生産現場を体験しようと来勝しました。幕別町へは１クラス４０名の生徒がやってきました。

２０日に糠内コミュニティセンターで行われた入村式の後、札内地区の受入れ農家宅へ計５名の生徒が移動しました。各農家ではかぼちゃの箱詰めや長いものポール抜きといった農作業を体験し、爽やかな汗を流しました。

２１日に行われた退村式では、受入れ農家代表として当農協の組合員が、「十勝で生活した２日間の思い出を大切にして下さい。」と挨拶しました。また、生徒達も「貴重な経験をさせてもらいました。」「楽しい２日間でした。」と笑顔で話していました。

入村式では、これから始まる農村での生活に緊張している面持ちの生徒達でしたが、退村式ではお世話になった農家の皆さんと別れを惜しみ、涙を見せる一面もありました。

ファーマーズマーケット
越冬・漬物野菜市

越冬・漬物野菜市は毎年大反響で、町内はもとより町外からも多くのお客様が来店されます。

昨年は１０月２４日～１１月１日まで行われ、漬物用として人気の白人大根や聖護院、総太大根、白菜、キャベツ、長ネギ、ごぼう、玉ねぎなどが好評で、大勢の買い物客で賑わいをみせていました。

平成２７年の営業は１１月２９日（日）が最終日となりました。９月１２日から始まった長いもや各種ジャガイモ等の地方発送も多くのお客様が利用し、活気溢れるファーマーズマーケットでした。

青年部　食育推進事業

１０月２７日、幕別町教育委員会の主催で実施されている食育推進事業が当農協青年部の協力により行われました。今年は札内北小学校３年生１クラス４１名と、札内南小学校３年生３クラス９２名が合同で実施し、長いも掘りと青空授業が行われました。

長いも掘りで生徒達は大きな長いもを探して、スコップ片手に無我夢中で作業に没頭していました。大きな長いもを掘り当てると、「採れたー！！」と声を上げて嬉しそうな姿がみられました。また、青空授業では長いもに関する授業を行い、「長いもの仕事で一番大変な作業は何ですか？」「長いも作りの時に、どんな工夫をしているのですか？」といった生徒からの質問に答える場面もあり、充実した授業となりました。

平成２７年の食育推進事業は１３０名を超える生徒を対象に行われ、昨年とは違う緊張感の中ではありましたが、大成功の内に食育推進事業を終える事ができました。

ＪＡ北海道大会

平成２７年１１月１１日、ＪＡグループ北海道の役職員約２千３百名が一堂に会し、「第２８回ＪＡ北海道大会」が開催されました。当農協からは組合長をはじめ４名が参加しました。

『北海道５５０万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」』という大会メインテーマのもと、日本の食料供給基地を担うにふさわしい所得を確保することによって、次世代に継承できる持続可能な産業になること。農村に暮らす人々が、消費者や地域住民とのつながりによって「心の豊かさと誇り」を実感できる魅力ある農村になること。これらを創るにあたり、北海道５５０万人と共に持続可能な農業と農村を実現することに将来ビジョンを設定しました。

「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現に、組合員ニーズの多様化と環境変化が激しい時代に即応するため、従来の教育重視の人づくりから学習重視の人づくりへの転換を図り、組合員および役職員は、仕事経験または共同理念に基づく組織活動を通して「自ら学び、気づき、成長する」という意識改革に取り組む姿勢が挙げられました。また、ＪＡは「経営基盤の強化」に引き続き取組み、健全で活力ある組織を築くための統制環境やリスク管理態勢の整備。農業振興・営農指導に係る投資、リスク耐性強化に向けた財務基盤確保。総合相談窓口機能を担う職員、専門性を持った職員の育成、企画力やコーディネート力など必要な能力の向上。組合員の声、営農・地域農業の情報などの収集・蓄積・共有・活用といった取り組みを実施していくことが取り上げられました。

ＪＡ十勝　青年部大会

１１月２５日、日航ノースランドにてＪＡ十勝青年部大会が開催されました。当農協からは８名の部員が参加し、『ＯＮＥ～つなげる想い～』という大会テーマのもと、他の単組との交流や意見交換を行いました。

「十勝地区ＪＡ青年部活動実績発表大会」では、６単組が発表を行い、ＪＡ青年部組織の強化と活動活性化について、他の模範となり今後の発展性が期待される事例や、地域内農業およびＪＡ活動への具体的な成果をあげる実例が取り上げられました。部員一同、他の単組で行われている青年部活動に興味津々な面持ちで話を聞いていました。

女性部友の会　料理講習会

女性部友の会の料理講習会が１１月３０日に幕別町百年記念ホールで行われました。メニューは「ガーリックバター醤油炒飯」「モッツァレラチーズのサラダ」「シーフードグラタン」「白練りごまのスープ」「鮭とモッツァレラの重ね焼き」「ベリーとクリームチーズのマフィン」の計６品でした。

味・出来栄え共に全品、皆さん大満足のいく料理が出来ました。中でも炒飯はバターとにんにくが絶妙なバランスでとても美味しかったという声がありました。

女性部　生涯学習～しめ縄つくり～

１１月３０日に農協２階会議室にて、参加者１３名によるしめ縄作りが行われました。素敵なしめ縄でお正月を迎えようと、皆さん真剣な面持ちで作業していました。

縄本体に様々な縁起物『しめ飾り』を取り付ける工程では、お互いにアドバイスし合いながら、オリジナルの作品を作ろうと頑張る姿がみられました。

完成してみるとほとんど同じ材料なのに、一つ一つ個性のある作品に仕上がり、皆さん大満足の様子でした。